

取扱注意書

**この商品は
業務用です!**

設置上の注意

①当器具銘板の表示ガス(ガスグループ)とご使用になるガスと同一であることを確認の上、設置して下さい。

- ①注1 銘板は器具の混合管部分に貼付してあります。
- ①注2 ガス種が異なる時は、ご使用にならずに器具をお取替え下さい。
- ①注3 プロパンガス(LP)ご使用の際は、ガス圧表示(注1)に従って低圧の範囲内にてご使用下さい。

②当器種は釜土専用タイプです。必ず不燃構造のステンレス製釜土、又は耐火モルタル製釜土の中にセットしてご使用下さい。尚、バーナーヘッドから鍋底までの空間寸法は下記の通りです。

マルチバーナー・丸型	150~170mm
マルチバーナー・角型	100~120mm



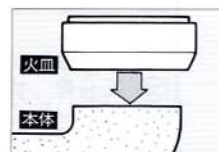
③釜土の中の燃焼室部分は給排気が充分にとれる構造(出来ればバーナーを置く底部は、下からの空気の流通が充分にとれる開放構造)でバーナーの管吸器部分からコック等は釜土の外に出るように設置して下さい。

サントクの商品は業務用として設計されておりますので普通の家庭用コンロより火力が強力です!!この事を常に意識していただき、調理中にその場を離れたり、お子様に使用させたりするのは危険ですので止めて下さい。

設置上の注意

- ④バーナー全長の変更は、原則として出来ません。又、バーナーの途中を曲げたりのセッティングも出来ません。
- ⑤ゴム管の接続は正しく奥まで差込み、ゴム管止めてシッカリ固定して下さい。
 - ①注1 『JISマーク』のゴム管(ガス用)をご使用下さい。
 - ①注2 折れやねじれ、引っ張り等ないよう必要限度の長さでご使用下さい。
 - ①注3 ゴム管の太さは、器具ゴム管口の太きと同一のものをご使用下さい。
- ⑥ガス管等にての直接の接続は、ガス工業者に依頼して行って下さい。

⑦バーナーの炎口部が取外し可能な火皿形状になっておりますので、バーナー本体のリング状の溝にはめ込み、ズレない状態に火皿が正しくセットされているか、必ずご確認下さい。



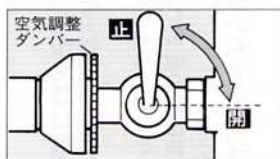
⑧このタイプの炎口は煮こぼれ、目づまりしやすいタイプです。上からの煮こぼれが直接炎口に落ちない構造の釜土のみにて、設置ご使用下さい。煮こぼれにより、簡単に燃焼不良を生じ危険ですから、くれぐれもご注意下さい。

設置上の不明な点がございましたら販売店か直接当社までお問合せ下さい。

使用上の注意

①ご使用前の確認と準備を正しく行って下さい。

- ①注1 バーナー本体、火皿が正しくセットされているかご確認下さい。
- ①注2 ゴム管の接続状態に異常がないかご確認下さい。
- ①注3 器具のガスコックが閉じていることを確認の上、元コックを開けて下さい。



②点火はマッチ等で、メインバーナーに着火させて下さい。

- ①注1 メインバーナーへの着火時は調理に使用する鍋等を載せて行って下さい。
- ①注2 初めて使用する時、しばらく使用しなかった時等にはゴム管内の空気が入っておりますので、空気抜きの為に点火装作を繰返して下さい。

③空気調整は炎の燃焼状態を見ながらメインコックの先の管吸器のダンパーを回転させて調整を行い、正常な炎を維持してお使い下さい。

- ①注1 炎が飛んで着火しにくい場合 空気を少なめに
- ①注2 炎の先端に黄色い炎が出る場合 空気を多めに

④日常使用時に、炎の状態に変化が起きてきた時は「点検・お手入れの注意」に従って、点検・お手入れを行って下さい。

⑤ご使用中は、危険ですので器具のそばを離れないで下さい。

⑥ご使用中、及び直後は器具の温度が高くなりますので、ガスコック以外は触れないで下さい。

⑦狭い部屋、締め切った部屋でのご使用や長時間のご使用時には必ず部屋の換気が必要です。時々窓を開けたり、換気扇を回して換気を行って下さい。尚、窓のない部屋には必ず換気口を設けて下さい。

⑧消火時はバーナーコックを完全に閉じ、必ず消火を確認し、使用後は必ずガスの元コックも閉めて下さい。

注 火力調整・ON・OFF方式
とろ火は使用できません

日常の点検・お手入れの注意

- ①点検・お手入れは、器具が充分に冷えてから行って下さい。
- ②点検・お手入れは、定期的に行ってください。
 - ①注1 火皿部分のお手入れ 一週間に一回くらい
 - ①注2 混合管部分、ノズルのお手入れ 三ヶ月に一回くらい
- ③ゴム管が古くなってひび割れたり、折れ曲がったり、器具に触れていたりしていないか。元コックやゴム管口に充分に差込まれているか、時折点検して下さい。

器具の異常と対処方法

こんな異常の時	考えられる原因	対処方法
前管からのガスもれ		販売店へ連絡を
コックからのガスもれ	グリスの消耗	グリスを補充
	コックの柄子の下のネジのゆるみ	ネジを締める
混合管部分よりのガスもれ及び引火状態	混合管内部の煮こぼれ、目づまり	混合管内部の掃除
	ノズルの目づまり等	ノズルの掃除
炎のばらつき 燃焼状態	火皿の炎口部分の煮こぼれ、目づまり	炎口部分の掃除
	火皿が古くなって磨耗してしまった	取り替えが必要

ご使用中にご不審な点がございましたら直ちに使用を中止し、点検をしていただいた上で、販売店か当社までご連絡下さい。